

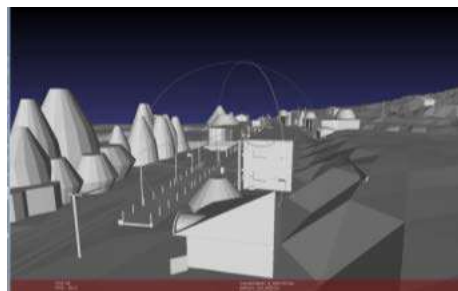
No.7 空のインフラ構築に向けたドローンによる効率的な空域利用の実証

- ドローンは「空の産業革命」と称され、様々な社会課題を解決する技術として期待されているが、現状では規制や落下時のリスクを踏まえると飛行可能な空域は限定的であり、空域を最大限に利用可能な空のインフラ構築が課題。
- (株)ゼンリンでは、「みちびき」の高精度測位情報(センチメートル級測位補強信号)と、正確に測量した精度の高い3次元マップを組合せ、狭域空路を精密に飛行するための実証実験を実施。
- 測位精度向上により細やかなルート設計・運用を可能とし、物流・警備・点検・災害対応など様々な用途におけるドローン活用の幅を広げることに貢献。

測量した点群データ



モデリング

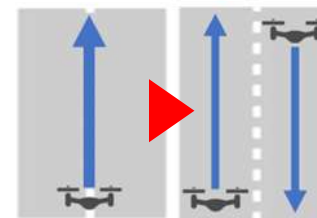


実証実験の様子 (2019年2月)



あらかじめ設定された線路上空を正確に飛行

狭域な飛行可能空域が出来上がると、様々な用途におけるドローン活用を広げることに寄与する。



- ドローンを複数機、密度をあげた飛行
- 細やかなルート設計と飛行

物流	警備	点検	災害対応

稼働率を向上させることが可能となり、事業利益を創出する。また、2020年代の都市部での物流・警備用途や点検の高精度化など、ドローンの活用の幅が劇的に広がっていく。